**◎「いのちの躍動」講座　参考資料　　　　　　　　　　令和３年３月２０日（土）**

**『ロダンの言葉抄』（高村光太郎訳、岩波文庫）「グゼル編『芸術』より」引用。**

**別の訳本『ロダンの言葉』（古川達雄訳、三笠書房）**

◎「肉づけ（第３章）」

１．ギリシアの彫像には生命そのものが、脈うつ筋肉を活かし、暖めているのに官学派芸術のだらしのない人形は**死んで氷のよう**です。（219頁）

（古川訳）生命がギリシャ彫像のぴちぴちとした筋肉を活気づけ、引立てているのに比べて、一方アカデミック芸術の無定見の木偶（でく）は宛ら**死によって氷っているかの様**です。

（Fedden訳）While life animates and warms the palpitating（脈うつ） muscles of the Greek statues, the inconsistent dolls of academic art look **as if they were chilled by death**.”

（Caso訳）Whereas life animates and warms the palpitating muscles of Greek statues, the inconsistent dolls of academic art seem **frozen by death**.

◎「芸術における神秘（第９章）」（221頁）

●ロダンにとって「宗教」とは？

２．（グゼルはロダンに貴下は宗教的かと尋ねる。）

――それはその言葉に持たせる意味次第です。もし宗教的という事が某々の習慣に従ったり、某々の教条の前に平伏したりする事を意味するならば、明らかに私は宗教的でない。今の時代にまだそういう人間がありますか。誰が自己の批判的精神と道理とを棄てられますか。

３．だが、私の考えでは宗教というものは信経の誦読とはまるで別なものです。（222頁）

（古川訳）しかし私の意見をいえば、宗教とは信条（クレド）を唱えるのとは別個のことです。

４．それはすべて説明された事のない、また疑いもなく世界において説明され得ないあらゆるものの情緒です。

 ●「不知」の力への礼拝

５．**宇宙的法則を維持し、また万物の種を保存する「知られぬ力」の礼拝**です。

（古川訳）それは、宇宙の法則を支え、諸々の存在物の型を保つ**未知の『力』への崇拝**です。

（Fedden訳）It is the **adoration**（崇拝、崇敬） **of the unknown force** which maintains the universal laws and which preserves the types of all beings;

６．「自然」の中でわれわれの**感覚の下に落ちて来ないあらゆるもの**、われわれの肉眼でも心眼でも見る事の出来ないものの無辺世界の推測です。

７．　それはまた無限界、永遠界に向っての、きわまりなき智慧と愛とに向ってのわれわれの意識の**飛躍**です。多分夢幻に等しい頼み事でしょう。だがそれは、この世から、われわれの思想をまるで翼の生えたように飛躍させるのです。**この意味でなら、私は宗教的です**。

８．（燃える火を見つめながら）――**もし宗教が存在していなかったら、私はそれを作り出す必要があったでしょう**。真の芸術家は、要するに、人間の中の一番宗教的な人間です。

９．世人はわれわれは感覚によってのみ生き、外観の世界がわれわれを満足させていると信じています。世人はわれわれはきらきらする色彩に酔い、人形を弄するように形を弄して喜ぶ子供だとしています。これは誤解です。

線と色調とはわれわれにとって隠れたる実在の表徴です。表面をつき通して、われわれの眼は精神へまで潜り込みます。そしてわれわれが輪廓線を写し出す時は、内に包まれている精神的内容でそれを豊富にするのです。

芸術家という名に値する芸術家は「自然」のあらゆる真を表現すべきです。ただ外面の真ばかりでなくまたやはり、またことに内面の真をです。

●生命を生気づけるもの

１０．　良い彫刻家が人間の胴体を作る時、**彼の再現するのは筋肉ばかりではありません。それは筋肉を活動させる生命です**。…**生命よりも以上のもの**、…力です。力がそれに附与しまた伝えるものは優美の事もあろうし、烈しい強さの事もあろうし、愛情的魅力の事もあろうし、制し難い激越の事もあろう。ミケランジェロはあらゆる生きた肉の中に創造的の力を鳴り響かせた。

（古川訳）よき彫刻家が人体の胴を刻むとき、彼が表わすのは単に筋肉のみではなくして、**それを生気づけている生命**、……**生命以上のもの**、……それらを形づくり、それらに或は優美を、或は力を、或はほれぼれとする魅惑を、また或は抑えるべくもない憤激を伝える力なのです。

（Fedden訳）“When a good sculptor models a torso, he not only represents the muscles, but **the life which animates them**— **more than the life**, the force that fashioned them and communicated to them, it may be, grace or strength, or amorous charm, or indomitable will.

１１．　到るところで偉大な芸術家は自分の心霊に答える心霊の声を聞きます。君はどこにこれ以上宗教的な人間を発見しますか。（224頁）

●礼拝（跪拝）の行為

１２．　彫刻家が自分の研究する**形に偉大な性格を認めた時**、一時的の線の中から各生物の永遠的な形象を抽き出し得た時、一切諸法の原本である不変のモデルを聖なるもの自体の中に見別けたような時、**この彫刻家はそれでもまだ礼拝した事にならないか**。

（古川訳）彫刻家が、その研究する諸形態に偉大な性格を認めるとき、また瞬間的な線条の中に各存在の永遠の型を開放しうるとき、また神性の正しく中央に、あらゆる被造物がそれにならってこねられているあの亀艦を認めるが如くに思われるとき、**彼は今さらに跪拝の行為を行わぬでしょうか？**

（Fedden訳）“Does not the sculptor perform his **act of adoration** when he perceives the majestic character of the forms that he studies?— when, from the midst of fleeting lines, he knows how to extricate the eternal type of each being?— when he seems to discern in the very breast of the divinity the immutable models on which all living creatures are moulded?

●彫刻家自身が体験した「戦慄」

１３．　**形を普遍化する天賦、即ち生きた現実を空虚にする事なしに形の理法を表わす天賦を持っている芸術家は、みな同じ宗教的感情を生み出します。なぜと言えば、彼は不朽の真実の面前で彼自身体験した戦慄をわれわれに伝えるからです**（224頁）。

（古川訳）**形体を総括する、つまりそれの生命的実体を失うことなく理論を表明するという才能をもつ芸術家は、同様な宗教的感動を呼び起すのです。なぜなら、彼は彼自身が不滅の真実の前に臨んで体験した戦慄を我々に伝達するからです**。

（Fedden訳）Every artist who has the gift of generalizing forms, that is to say, of accenting their logic without depriving them of their living reality, **provokes the same religious emotion**; for **he communicates to us the thrill he himself felt** before the immortal verities.”

１４．（グゼル、ゲーテの「ファウスト」の例を引く。）――実に壮麗な場面ですね。そして実に広大な幻想ですね、ゲーテのものは！

神秘というものは、それに、雰囲気のようなもので芸術の最も美しい作品はみなそれに浸っています。そういう作品は本当に天才が自然の面前で験証するあらゆるものを表現しています。自然を再現するに、人間の頭脳が発見し得る限りの明徹をもってします。壮麗をもってします。

（古川訳）もとより**神秘とは極めて美しい芸術作品がそこにゆあみするいわば雰囲気のようなもの**です。

●「不可知」への衝突

１５．けれども従ってまたそれはきわめて小さい可知の世界をまるで**包み込んでいる広大無辺な「不可知」に衝突します**。それはつまりわれわが世界において覚知し、領解するものは、万物の中のほんの一端であって、われわれの眼の前にあらわれ、またわれわれの感覚と魂とに印し得るだけのものに過ぎないからです。しかしその余のものは無限の茫漠の中に沈潜しています。そしてわれわれのごく近くでさえも、**無数のものがわれわれにはかくされています**。われわれがそれを捉え得るように組織されていないのです。

（Fedden訳）but they also **fling themselves against that immense Unknown which everywhere envelops our little world of the known**.

●「不可知」があることを会得させる

１６．（グゼル、ユーゴ―の詩「われわはただものの一面を見るに過ぎず」の一連を読む。）

――この詩人は私よりもよくその事を言っています。人間の叡智と誠実との最高の証跡である美しい作品は、人間につき、また世界について**言い得る限りの事を言い尽しています**。そしてまたその外に**知る事の出来ないもののある事を会得させます**。**あらゆる傑作はこの神秘的性格を持ってます**。そこにいつでも少しめくらめきがあります。

●パルテノンのアフロディテ

１７．　この三人の女が坐っているに過ぎません。がその姿勢が実に滑らかで実に高貴で、まるで**眼に見えない絶大なある物に関与している**気がします。

●大いなる神秘（不可知の領域）

【**Au-dessus d’elles règne en effet le grand mystère** : **la Raison immatérielle, éternelle, à qui toute la Nature obéit** et dont elles sont ellesmêmes les **célestes servantes**. 】

１８．彼らの上にはまったく**大きな神秘が統治しています**。即ち、**無形な、永遠な「理法」**です。**これには全「自然」が服従します。そしてこの女神もまた彼ら自身その天上界の召使なのです**。

（古川訳）全く彼女達の上には**大きな神秘が支配しています**。すなわち、全自然が服従し、そして彼女達自身さえ天界における召使である**無形の、そして永遠の『理』**。

（Fedden訳）Over them reigns the great mystery, the immaterial, eternal Reason whom all nature obeys, and of whom they are themselves the celestial servants.

１９．こうして**すべての大家は立ち入れない「不可知」の領域の園**まで前進しています。

（古川訳）このように巨匠達はすべて、**不可知なるものをへだてている囲い**にまで突進しているのです。

（Fedden訳）So, all the masters advance to the barrier which parts us from the Unknowable.

２０．**ある者はそこで哀れに前額を傷けます。想像力のもっと元気な他の者は壁越しにこの秘密の果樹園に棲む微妙な鳥の歌を聞いていると信じています**。（226頁）

（古川訳）**彼等の中の或る者は傷ましくもそこで額を傷付けます。また他の者は更に明るい想像を描いて、内部の果樹園に群れつどう小鳥の美しい歌声が掘越しに聞えてくるように思いこむのです**。

●グセルによるロダン彫刻評

２１．（古川訳）私は彼自身の作品の方へ会話を向けていった。――先生（と私はいった）、貴方は他の芸術家についてはお話しになりますが、御自身のことについては沈黙していられます。しかし貴方はその芸術の中に最も多くの神秘を加えた人々のお一人です。貴方の最も些細な彫刻の中にすらも、眼には見えず説明も不可能な、苦悩ともいうべきものが認められます。

２２．――おやおや！　グセルさん（と私に皮肉な視線を投げながら彼はいった）、もし私が自分の作品の中に或る感情を表わしたとしても、**それを言葉で仔細に語るようなことは、完全に無益のことです。何故なら私は詩人ではなく、彫刻家なのですから**。それに人々は私の作品の中に、容易にそれを読みとることが出来るはずなのです。そうでないとすれば、私はそれらの感情を経験しなかったも同然だと云えましょう。

２３．――ごもっともです。それらを見出すのは洽（あまね）く観者なのです。だから私は、貴方の霊感の中で神秘であると思われるところを、貴方に申上げようと思います。私が正しく見たかどうか、それをおっしゃってください。

２４．　人間に於いて特に貴方の心を奪ったもの、**それは肉体の中に縛りこめられている魂の、奇怪な不自由である**、と私には思われます。貴方のいずれの彫刻に於いても、それは等しく**肉体の重量と怯懦（きょうだ）とにそむいて、夢想へと向う精神の飛躍**なのです。

２５．『洗礼者ヨハネ』においては、重くしかも肥り気味の人体が、一切の地平線をもうち越える**神の使命によって緊迫し、燃え立っています**。

**２６．『カレーの市民』**に於いては、火と燃える至高な不滅の心魂が、ためらう五体を刑罰へと引ずり立て、そして『**お前は慄えている、屍よ！**』［Turenne 1611-1675が自分を鼓舞し馬に言った言葉］とあの有名な言葉を叫んでいるように思われます。

**２７．『考える人』に於いては、空しくも絶対を抱擁せんと願う瞑想が、その恐ろしい努力の下に**力士の肉体を縮ませ、それを撓（たわ）め、それを丸めて粉砕しております。

（Fedden訳）**In your Penseur, meditation, in its terrible effort to embrace the absolute, contracts the athletic body, bends it, crushes it**.

２８．『接吻』においてさえも、双の身体は、魂の希う解き放ち得ぬ合体には達すべくもないことを既に自ら感じているもののように、憂わしげに**慄えおののいて**おります。

２９．『バルザック』においてはかの天才は巨人的な幻想に出没して、まるで乞食のようにその病める肉体を揺すぶり、それを不眠症に陥れて、苦役囚の労働を強調しているのです。

３０．いかがでしょうか、先生？

――否定を致しません。とその長い髯を物思わしげに撫していたロダンはいった。

３１．（古川訳）また胸像作品においては、貴方は恐らくは更に一層、物質の束縛に対するあの精神のもどかしさを示されました。ほとんどすべてのものがかの詩人の美わしい詩句を思い出させます。

　**飛び立つ鳥の、梢を撓（たわ）ませるごとく、 その魂　肉体を撃ち砕きたりき！**

（Caso訳）Just as the bird in taking flight bends the branch, **So his soul has broken his body!**

●ロダンを動かす神秘「魂の激越」

３２．（高村訳）だが、私の制作に境界もない自由と真実との、或いは幻かもしれない王国を目指しての**魂の激越**を観察したのは、よく肯綮（こうけい）にあたっています。まったく、**私を動かす神秘はそこにある**のです。（227頁）

（古川訳）然し貴方は私の様々な作品を観察して、限界なき真実と自由との、或は架空なる王国へとむかう、**魂の飛躍**に正しくも触れられました。事実それこそは、まさしく私を感動させた神秘なのです。

●宗教の第一の掟――腕、胴、腿

３３．君はもう芸術は一種の宗教だという事を納得しましたか。（――グゼル、「確かに。」）――だがまた、**この宗教を修めようとする者にとっての第一の掟は、一つの腕一つの胴体もしくは腿が十分にこなせるという事にあるのだということを注意するのが肝腎です！**（９章終り）

◎「フィディアスとミケランジェロ（第10章）」（244頁）

**【l’équilibre**. **Posture pleine d’abandon et de grâce**. **】**

３４．右足はこれに反して自由です。足の指先だけで地面へ突いていて、補助支点としかなっていない。必要に応じては均衡を乱さないで持ち上げる事が出来る。**閑雅と優美に満ちた姿勢**。

（古川訳）しかるに他方の脚は自由です。それは僅かに足趾の尖端によって地上におかれているのみであり、そして補足的な支点をなしているに過ぎません。必要に応じて、平衡を乱すことなく上げることが出来るでしょう。**気安さと優美にみちている姿勢**。

（Fedden訳）The other leg, on the contrary, is free— only its toes touch the ground and so only furnish a supplementary support; it could be lifted without disturbing the equilibrium. **The pose is full of abandon and of grace**.